



左手首に着けているオレンジリングは仲間（サポーター）の印です。



## 認知症サポーター倶楽部

代表 五十嵐 潔 さん（後列、右から3人目）

18名のメンバーで認知症に対する理解を深めようと活動している認知症サポーター倶楽部。さまざまな取り組みを通して町民の方へ認知症の特徴やサポートの仕方を伝えています。

### 手作りで認知症を伝える

認知症に対する理解を深め、地域ぐるみで認知症の方やその家族をサポートしようと平成19年3月に8名の会員で活動をスタートさせました。

メンバーは、親が2人とも認知症で、少しでも自分の経験を伝えたいと活動している方や日頃から介護に携わっている方など、さまざまな想いを持って活動しています。

活動内容は、毎月1回くらいみんなで集まって勉強会をしたり、小学校や各地域の高齢者クラブから出前講座の依頼があった場合に認知症サポーター養成講座を開いて認知症の特徴やどのようにしてサポートするかをみなさんに伝えています。

最近では、子どもの頃から認知症についてしっかり伝えることが必要と考え、小学校の福祉教育の時間を使い、認知症を寸劇によって伝える活動をしています。この劇は、三世代の家庭をモデルにした構成になっており、孫と一緒に暮らす元気なおじいちゃん、おばあちゃんが認知症になり、身の回りのことができなくなることをサポートしていく内容になっています。授業の最後に「しっかり高齢者をサポートしたい」という感想を聞いて、劇をやってよかったという気持ちになりますね。

町議会議員の方からも認知症のことをよく勉強したいと講演の依頼があり11月5日に講演会を実施しました。

私たちの活動は、すべて手作りで行っていることが特徴で、劇の台本から小道具までメンバーの自

作です。こうすることで、メンバーの絆が深まるんですよ。

### 養成講座を受けて一緒に活動しましょう

認知症の方や家族の方は、不安や悩みを周囲の人に打ち明けられず、困っている人が多くいます。メンバーの中には、自分の家も居場所も分らないで徘徊していたお年寄りに「いいお天気ですね」と自然に声をかけて家まで連れて帰った経験を持つ方もいます。

私たちは、できるだけ多くの方に声のかけ方や症状の特徴を理解していただくことで、地域で認知症の方や家族をサポートができると考えています。

サポーターを増やしていくためにも、仕事で忙しい40・50代の方や主婦の方にも是非、養成講座を受けてほしいですね。

## ふれあい倉庫情報

### 【カルチャーホール】

#### 「第36回石狩管内郷土芸術祭展示部門」

管内市町村の文化芸術作品展示会です。

▼日時 12月5日(土)10時～17時  
6日(日)10時～15時

▼主催 北海道文化団体協議会

▼問合せ 教育委員会社会教育課 (☎22-3834)

#### 「第5回 当別歴史講座」 戦後の開発とまちの変貌

▼提言者 辻野 修さん

▼日時 12月19日(土)13時30分～

▼主催・問合せ 教育委員会社会教育課 (☎22-3834)

#### 「NPO法人 つくしのクリスマスコンサート」

▼日時 12月26日(土)13時30分～

▼主催 NPO法人まちの森

▼問合せ 横山 (☎22-2685)

#### 「ウインターレングコンサート」【入場整理券はふれあい倉庫で】

▼日時 12月20日(日)17時～

▼主催 当別アンサンブルファミリー

▼問合せ 鰯渚 (090-8707-9686)

#### 「新春恒例 ポイントカード会 現金つかみどり」

今回は当選本数を増量！ポイントカード会加盟店の福袋も販売！

▼日時 1月2日(土)～3日(日)13時～17時

▼主催 とうべつポイントカード会

▼問合せ 商工会 (☎23-2447)

## 年末年始について

休館日 12月30日(水)～1月5日(火)

## 冬期間も好評につき発売中

加工品(SPF豚のソーセージやいもだんご汁セット)およびロイズのチョコレート、岩出山のかりんとう、宇和島のみかんやハチミツ、飲む健康酢など。

## JR当別駅前の南口駐車場について

駐車場は倉庫開館時間の午前9時～午後7時まで使用できます。夜間の駐車はご遠慮願います

▼問合せ ふれあい倉庫 (☎27-6600)  
商工課 (☎23-3129)

続

## 町長の日記

平成21年11月12日(木)

今月の初めに6日間程モスクワ市へ行ってきた。もう29年間も続いている北方領土返還運動の一環で民間による交流事業なので、お互いソフトな感じで友好的な対話が3日間行なわれた。

一緒に行った人で、国後島で生まれ昭和20年8月15日に太平洋戦争が終わった直後に突然ソ連軍が進駐して来たので命からがら北海道へ逃げてきたと言う人が故郷に対する心情を切々と話されたが、相手から「戦後60年もたったので、今、島に住んでいるロシア人もそこが故郷になっている」と上手に反論された。

交流が終わって帰国した時「知床旅情」の歌を作られた森繁久弥さんが96歳で亡くなられたニュースが飛び込んできた。その時、あの国民的な俳優が私の父と同じ年齢だった事を知り、北方領土の日本人を守るためにカムチャッカ半島にいて、ソ連軍の捕虜になった時の若かった父親の気持ちを想像して一度、北方領土へ行ってみたい気持ちになっていた。

そして、昨日は北海道農業開発公社の監査の為、根室管内の別海町まで来た。知床岬と納沙布岬の間にある別海町は人口より牛の数が多いと町長が自慢する酪農王国で北方領土に面した海岸の町である。

ここでは平和の象徴のように牛たちはなだらかな起伏の広い牧場でゆったり草を食べていた。

然し今、農家は夫婦二人で120頭以上は飼わなければ経営が安定しないので、一基2,600万円のロボットで搾乳する牛の舎内飼育システムを導入し、2億円くらいの補助事業に取り組んで頑張っている。

糞尿が海に流れ込まない近代的な装置の牛舎で飼われる牛は、生涯一步も牧場へ出る事はない。私達は、島を返して欲しいとロシアへ話しに行ってきたが、人間もやがて牛たちに自由を返してくれと言われないだろうか。

中標津空港から北方領土を横目に、丘珠空港に向けて小さな飛行機で帰ってきたが、いつもの監査とは違う複雑な心境だった。

離陸してからわずか30分で当別町の全景が眼下に入ってきた時、この10日間に見た国内外の何処よりも素晴らしい風景に私の感傷も時差ぼけも吹っ飛んだ。

当別町長衆亭俊考